

〔被覆資材を活用した直売用野菜の作期拡大〕

2月どりダイコンにおける品種比較および被覆・マルチ資材の検討

野口 貴・海保富士男・沼尻勝人
(園芸技術科)

【要 約】 2月どりダイコンは、品種「春慶」が有望で、マルチは透明、被覆方法はパオパオのべたがけおよびユーラックカンキ2号のトンネルによる多重被覆が有効である。

【目 的】

ダイコンは都内における主力の野菜品目であるが、7～10月と並んで2～3月は良品生産が難しく端境期となっている。このため、端境期における生産対策が急務となっている。そこで、露地栽培における被覆・マルチ資材の検討と品種比較を行い、都内における2月どりダイコン栽培を確立するための一助とする。

【方 法】

「春風太」以下4品種を2010年10月26日に透明および黒マルチ9230(千鳥)を敷設した幅70cm(通路50cm)のベッドに1穴3粒ずつ播種した。播種直後から「ベタロンDT-650, ユーラックカンキ2号, パオパオ」のいずれかを用いてトンネルまたはべたがけ被覆をし、11月12日からは、さらに「ユーラックカンキ2号」によるトンネル被覆の併用または「パオパオ」によるべたがけを追加し、多重被覆とした(表1)。間引きは11月30日とし、1穴1本に調整した。肥料は窒素, リン酸, カリを10aあたり分量でそれぞれ15kgを全量基肥として施用した。収穫および特性調査は2011年2月14日に行った。

【成果の概要】

1. 各マルチ, 被覆下の地温をみると, いずれの処理区とも裸地地温より6～7℃高く推移した(図1)。各処理区を比較すると, 同じ資材を用いて組み合わせ方の異なるBとDとの比較ではDが高かった。播種直後の10月28日～11月1日にまとまった降雨があったことから, べたがけのD区では土壌の水分含量が増加し, 蓄熱性や保温性が高まったものと考えられる。
2. 根重, 根長をみると, 品種では「貴誉」で生育が早かった(図2)。被覆方法ではBで生育が遅く, Dで早い傾向にあった。
3. 根長および根重の変動係数を見ると, 品種では「貴誉」で小さく揃いが比較的によく, 「春風太, 春慶」ではばらつきが目立った(図3)。被覆方法では, DやCで変動係数が大きく, AとCのように同じ資材を用いても, 被覆の仕方で結果が異なった。
4. 抽根部の凍結による表皮剥離や内部の腐りなどは, 品種「春慶」で少なく, 被覆方法ではDで少なかった(図4)。また, マルチの種類では「貴誉」を除き, 透明マルチでこれらの凍害が少なかった。
5. まとめ: 2月どりダイコンにおける凍害の少ない品種は「春慶」, マルチは透明, 被覆方法は, パオパオのべたがけとユーラックカンキ2号のトンネルによる多重被覆である。今後, 生育のばらつきを抑えるとともに, 保温性を高める方策を検討する。

表1 被覆処理の方法

試験区	被覆方法	
	播種直後	被覆の追加(多重被覆)
A	BET トンネル	YK2 トンネル
B	YK2 トンネル	PAO ベたがけ
C	BET ベたがけ	YK2 トンネル
D	PAO ベたがけ	YK2 トンネル

資材の凡例: BET(ベタロン), YK2(ニューラックカンキ2号), PAO(パオパオ). 2010年11月12日から多重被覆.

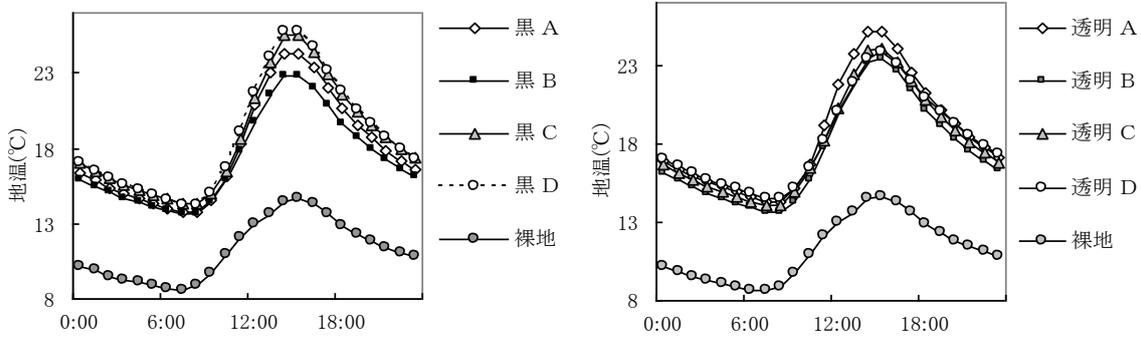


図1 マルチの種類および被覆方法が地温に及ぼす影響
地下10cmにおける11月20日～25日の日周平均値.

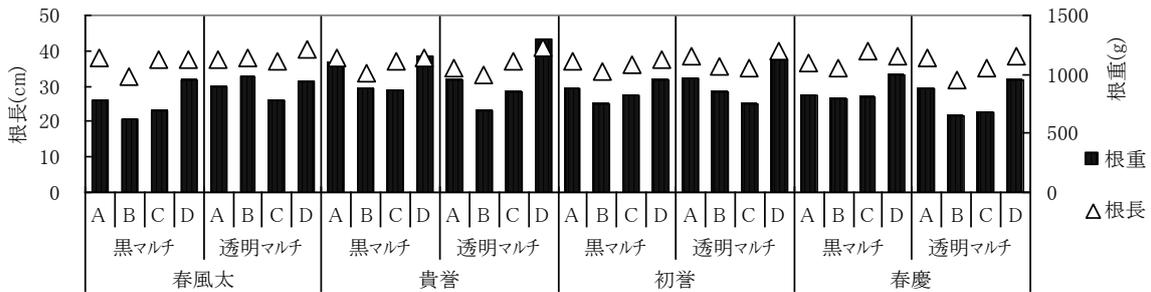


図2 品種, マルチの種類および被覆方法が2月どりダイコンの根長, 根重に及ぼす影響

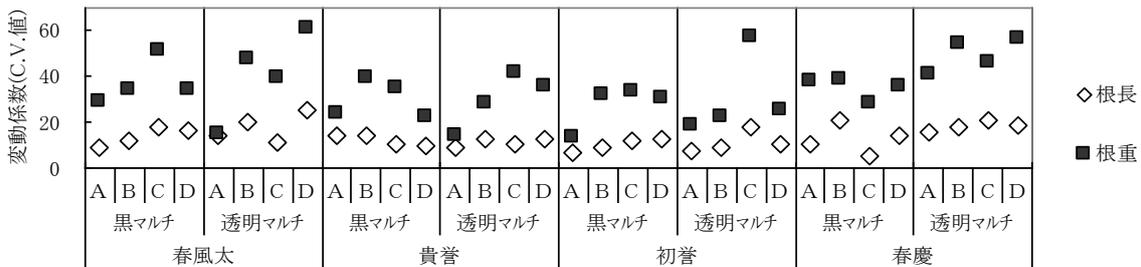


図3 品種, マルチの種類および被覆方法と2月どりダイコンの生育のばらつきとの関係

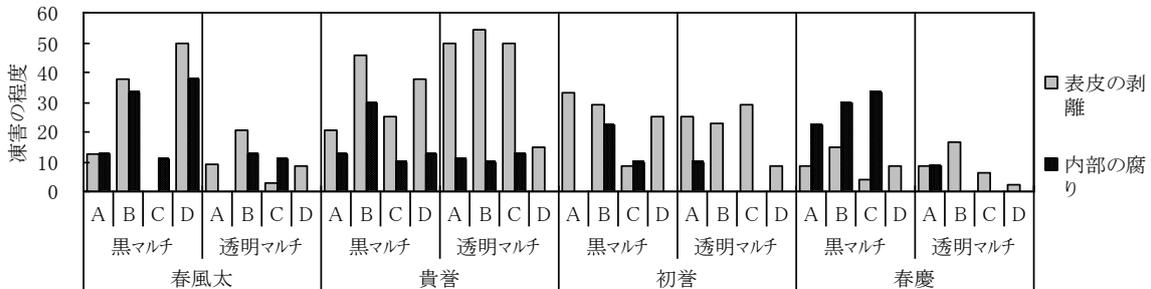


図4 品種, マルチの種類および被覆方法が2月どりダイコン抽根部の凍害に及ぼす影響
凍害の程度 = $\Sigma \{ (\text{指数} \times \text{該当数}) / (4 \times \text{調査数}) \} \times 100$. 指数0(障害なし)～4(被害甚).